

かずさの博物誌

ホシハジロ

～ルビーのような眼～

文・写真／成田篤彦

2015.2.20



▲河口を泳ぐホシハジロの雄(左)と雌(右)
=2012年11月30日 木更津市

このため池は、海岸に接した稲作地帯にあり、メヒシバ(イネ科の雑草)、イネ、ミゾソバ、アマモ(海草)、ホトトギス(海の浅瀬の貝)など、彼らのえさがとても豊富である。このため池はカモたちの休息場所であり、海が荒れたときの絶好の避難場所なのであろう。

近くにホシハジロの死骸が落ちていた。頭が大きく尾が短い。体はマガモなどより小さい。全体として、ずんぐりしている。この体形は潜水に向いている。

ちなみに、カモ類はえさの採り方や体形の違いなどから水面採餌カモ類(マガモ、オナガガモなど)と潜水採餌カモ類(キンクロハジロ、スズガモなど)に大別される。ホ

晩秋の小櫃川河口。
岸辺のヨシはすっかり枯れていた。川面の中央に二羽のカモが前後に並んで泳いでいた。

前のカモは頭が赤いさび色、胸と尻が黒。背と腹が灰色。後ろのそれは頭が褐色かかったさび色。背と尻は灰色であった。

眼がルビーのように美しい。前がホシハジロの雄で、後ろが雌だ。

ときどき、思い切り伸びあがり、頭から水中に潜る。その瞬間を撮ろうとシャッターを切るが、何度やっても速くて撮れない。

しばらくして、雄は胸を張り、雌はややうつむいて、二羽揃って海へ向かって泳いでいった。

仲睦まじい夫婦のようで微笑ましく感じた。

河口ではホシハジロはいつも二羽



▲ため池で休息するホシハジロとキンクロハジロ(左手前の4羽)の群れ
=2013年12月22日 木更津市

シハジロは後者に分類される。なお、ハジロとは飛行時につばさの中央より後ろの部分に太い白い線がでるからで、「羽白」からきている。

また、この死骸には胸筋が食べられた痕があった。

近くにノスリ、オオタカ、チュウヒなどの猛禽類がいる。それらに襲われたのか？

いずれにせよ、房総の冬には多くのカモ類が越冬している。そのなかでもホシハジロは比較的普通に見られるカモである。

陸や海辺の公園などで、ホシハジロのずんぐりした体形とルビーのような赤い眼を一度見て確かめたいかがでしょうか。



▲えさを求めて海へ群れ飛ぶホシハジロ=2015年2月11日 木更津市

memo

ホシハジロ (星羽白)

カモ目カモ科

全長四十〜五十センチ。バイカル湖からヨーロッパにかけて繁殖。冬季は南方に渡る。日本では冬鳥として全国に渡来する。

上総には十一月頃から飛来し、翌年四月頃まで陸の湖沼にいる。まれに内湾の浅瀬にいてもある。